

# 2024. 8月 女性チャレンジ応援拠点だより



## コラム 「資格よりも自分に頼る」

8月7日は立秋でしたが、7月後半のような酷暑が8月いっぱい続くという予報です。夏季休暇のある人はその間に十分英気を養い、休暇のとれない人は日常生活の中で細目に休息しましょう。安静時に活動が高くなる脳領域「デフォルトモードネットワーク (DMN)」は、「ボーッとしているときには、頭の中に過去・現在・未来にわたるさまざまなことがランダムに浮かんできて、時にひらめきをもたらすこともある」(※)とか。ボーッとした時間を多くして、カラダの休息とヒラメキにあやかりましょう。

さて、8月の『夢をカタチにみちびくコミュニケーション』は、最近相談を受けたケースがよい話題提供になりますので取り上げたいと思います。題して、「資格よりも自分に頼る」。

Aさんは昨年秋に介護・福祉分野の民間資格を取得、今後の活動を模索中とのことでした。その資格は何かと尋ねると、名刺を出され、受けとって、そこに書かれていたのは初めてみる資格名。でもネーミング自体は一般的によく使われる言葉の組み合わせで、他にも似たような資格はあるので、介護を必要とする人へのある施術の資格というのは容易に推察できました。そのつもりで話をうかがっていたのです。

ところが、「違うんです、そうじゃないんです、わたしが施術するんじゃないなくて、介護をうけている方に、自分で施術するスキルを身につけてもらう、そのお手伝いをする資格なんです」とAさん。仮にたとえれば、「介護調理師」と聞いたら、直感的には「要介護の人の、さまざまな身体的な機能低下を考慮した料理をつくる人」と想像すると思いますが、そうではなくて、「要介護の人に、自分の健康状態に応じた料理を自分で作れるように教える人のこと」と説明されたようなものでした。

活動の理念や概念を象徴的に表すのが資格のネーミングですが、そこにズレがある。モットイナイことですが、Aさんにはどうしようもできません。でも、工夫はできます。

活動を本格化させようと動き始めたばかりですから、まずは資格の団体が広報で使っている説明の文言をキャッチコピー風にして名刺に追記するなどはその一つです。資格元の団体はまだ設立3年目のようで、社会的認知が進むかどうかは未知数、今の段階では一般に知られていなくて、かつ取得するのもそれほど難しいものでなければ、活動の鍵はAさん自身にかかっているでしょう。

もともと資格は未来を保証しませんが、社会一般に難易度が高いといわる資格は過去の努力の証明にはなりません。それ相当の勉強をしないと合格できませんから、その努力を担保に、機会を得ることはできます。ただしその機会にしっかり役割を果たさないと、継続要請は望めませんから、先のとおり、未来は保証されないとイえるわけです。比較的簡単に取得できる資格なら、勉強の過去の蓄積が見えてきませんから、資格に過度な期待をせず、自身の問題意識のあり様やチャレンジしたい活動のテーマ性を表すシンボルという捉え方が妥当です。

さてそこでAさん、まずは「自分磨き」に時間投資することにされました。秋はさまざまな機関でセミナーや塾がたくさん開催される季節、今後の活動に役立つ経営や企画に関するものを探して受講される予定です。「なんだか、ワクワクしてきました」とは、頼もしい限りです。

と、今回はここ迄です。「女性チャレンジ応援拠点」のスタッフは、公私ともに、チャレンジする女性たちのチカラになれることが喜びなのです。みなさんのハヤル気持ちに寄り添いつつ、みなさんのチャレンジがよりよく長く続く活動になるよう、時にはシビアな意見もお伝えして、率直な対応にスタッフ一同努めています。ご利用をお待ちしております。

《参考文献》

※ 小谷泰則(2021). 心の動きと体をつなぐ脳内3つの「ネットワーク」ヘルシスト 270号

## 女性チャレンジ応援拠点

場所：大阪市天王寺区上汐 5-6-25 クレオ大阪中央 4階  
電話&ファックス：06-7659-9640  
メール：women-kyoten@danjo.osaka.jp  
運営：大阪市立男女共同参画センター中央館  
(電話 06-6770-7200 FAX 06-6770-7705)

※ 開室日

※日・月曜日、祝日、祝休日の翌日は休室

火	水	木	金	土
10:30 ? 12:30	18:00 ? 20:00	13:00 ? 15:00	10:30 ? 12:30	13:00 ? 15:00

※ 開室時間内は自由に出入りいただけます。  
お気軽にお立ち寄りください。

